

科目名 家庭基礎

単元名 超高齢社会を共に生きる

内容のまとめり A 人の一生と家族・家庭及び福祉
(4) 高齢期の生活と福祉

1 単元の目標

- (1) 高齢期の心身の特徴、高齢者を取り巻く社会環境、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解するとともに、生活支援に関する基礎的な技能を身に付ける。
- (2) 高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。
- (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、高齢者福祉についての課題解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
高齢期の心身の特徴、高齢者を取り巻く社会環境、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解しているとともに、生活支援に関する基礎的な技能を身に付けている。	高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について、問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、他者の意見を取り入れたりグループで協議したりして評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題解決に向かえる力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、高齢者福祉についての課題解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

3 指導と評価の計画 (8時間)

- | | |
|-----------------|-----|
| 1 超高齢・大衆長寿社会の到来 | 2時間 |
| 2 高齢者の心身の特徴 | 2時間 |
| 3 これからの高齢社会 | 4時間 |

3 指導と評価の計画

時間	【ねらい】・学習活動	重点 点	記 録	備考（・は評価規準（ ）は評価方法 ※は指導上の留意点及びキーワード）
1	【単元を貫く問い】 高齢になっても誰もが安心して自立的な生活を送ることができる持続可能な共生社会の一員として私たちにできることは？			
	【ねらい】 超高齢社会の背景を理解するとともに、高齢者が生きがいをもって生活するためには、家族や地域によるどのような支援が必要か考えることができる。			
	・超高齢社会の現状と今後社会全体で解決すべき課題について資料をもとに考察 ・身近な高齢者へのインタビュー結果やVTR視聴により高齢期の生活実態や課題、要望などの情報を収集し現状把握する。 ・山県市の高齢化の現状と地域で実践されている対策について知る。	知 思	★ ○	・資料をもとに超高齢社会の背景を理解し社会全体で解決すべき課題について考察し適切に記述している。（定期考査） ※「超高齢社会」「就労問題」「社会的孤立」「生計維持」「老老介護」 ・ノーマライゼーションの視点から高齢期になっても、誰もが安心して自分らしい生活を送るために、家族や地域による支援の必要性に気づき、どのような支援が必要か現状を把握したうえで考察している。（ワークシート） ※「生きがい」、「健康寿命」、「介護予防」、「自助・共助・互助」
【単元を貫く学習課題】 超高齢社会の課題、高齢者の生活課題を考察し、課題解決に向けて、地域の助け合いによる持続可能な共生社会の創造を目指して、コミュニティビジネスを企画しよう！				
2	【ねらい】 地域社会の一員としての高齢者との関わりや共生を考えるうえで、高齢期の実態や各種課題などの必要な知識や情報を収集しまとめることができる。			
	コミュニティビジネスを企画しよう！～Part1 情報収集～ ・学習課題と実施方法、達成目標、評価規準を確認する。 ・個人で課題解決のために必要な知識・情報を収集する。 ▶コミュニティビジネスのアイデア提案（次時までの課題）	態 思	○ ★	・学習課題の意図と実施方法などを知り、達成目標を目指し意欲的に取り組もうとしている。（行動観察） ・課題解決のために必要な知識や地域課題などの情報を収集し、考察することができる。（ワークシート・定期考査） ※「エイジング」「老化・成熟」「認知症」「介護・介助方法」「個人の尊厳」「自立支援」「健康寿命維持」「介護予防」など
3 ・ 4	【ねらい】 高齢になっても誰もが安心して自立的な生活を送ることができる持続可能な共生社会を築くために地域社会の一員として私たちにできることを考え、他者の意見を尊重しながら議論し、提案することができる。			
	コミュニティビジネスを企画しよう！～Part2 グループで議論～ ・どのような課題を解決するための企画を提案するかグループ内で議論しし精選する。 ・メンバーがまとめた課題解決のために必要な知識・情報をグループ内で共有する。	態 知	★	・地域社会の一員とし私たちにできる高齢期の課題解決について自身の意見を述べ、他者の意見も受け入れながら主体的に考えようとしている。（行動観察・ワークシート） ・各自がまとめた課題解決のために必要な高齢期に関する知識や情報、アンケート結果をグループ内で共有・整理し、理解を深めている。（定期考査・ワークシート）

	・より多くの課題が改善される企画を目指し、メンバーの企画案や必要な情報・知識を整理し、グループ企画の提案書を作成する。	態	○	・企画立案に向けた議論に意欲的に参加し、グループメンバーの提案や企画に必要な知識や情報の整理に貢献し、積極的に企画提案書作成に関わっている。(行動観察) ※必要に応じてシニア体験器具を用いエイジング状態を実体験させながら考えさせる。
5	【ねらい】 高齢になっても誰もが安心して自立的な生活を送ることができる持続可能な共生社会を築くために地域社会の一員として私たちにできることを高齢者と共に考えることで、異世代と協働する力や課題解決に向かう力を身に付ける。			
	コミュニティービジネスを企画しよう！～Part3 ブラッシュアップ～ ・高齢者を迎えるにあたり、高齢者を支援する際の心構えを学習する。 ▶ボディメカニクスの原則と心身の状態に応じた介助方法 ▶コミュニケーションの取り方や配慮の必要性 ▶山口市が取り組んでいる「介護予防事業」について説明する。	知態	★	・高齢者の尊厳と自立生活の支援の在り方について理解し、介助や支援に関する基礎的な技能を身に付け、実践できている。(定期考査・行動観察) ※地域が取り組んでいる「介護予防事業」の目的や実態を知り、立案中の企画をさらに具体化させるよう促す。
6 本時	地域の高齢者との交流学習 ・立案中のコミュニティービジネス企画に対して高齢者からの意見やアドバイスを受け改善案を一緒に考え、企画を練り直す。	態	○	・高齢者からの意見やアドバイスを受け、企画のブラッシュアップに向けてチームメンバーと改善案を一緒に考え、提案しようとしている。 (行動観察・ワークシート) ※持続可能なビジネスとなるよう促す。
7 8	【ねらい】 コミュニティービジネス企画の発表・相互評価を経て、学習内容の振りかえり、単元を貫く問いに対する自身の考えを深める中で、地域の助け合いで創造する持続可能な共生社会の一員としての自覚を持つことができる。			
	コミュニティービジネスを企画しよう！～Part4～<発表&評価会> ・グループのコミュニティービジネス企画のプレゼンテーションと相互評価 ・地域の助け合いで創造する持続可能な共生社会の一員として自分たちがすべきことをまとめる。 ・単元の学習を振り返り自己評価をする。	知 思	○ ○	・立案した企画の内容を十分に把握したうえで、発表におけるグループ内での役割を適切に担っている。(行動観察) ・高齢になっても誰もが安心して自立的な生活を送ることができる持続可能な共生社会を築く上で地域の助け合いが不可欠であることに気づき、学習活動を振り返り考察しながらまとめることができている。(ワークシート)

「重点」…重点的に生徒の学習状況を見取る観点。

「記録」…備考に記入している評価規準に照らして全員の学習状況を『記録に残す評価』に○を付す。

定期考査により『記録に残す評価』とする箇所に★を付す

4 学習活動と評価方法 (学習指導案)

科目名		家庭基礎	指導クラス	1年 3組	
単元名		超高齢社会を共に生きる	使用教科書	家庭基礎 自立・共生・創造(東京書	
本時の主題		高齢になっても誰もが安心して自立的な生活を送ることができる持続可能な共生社会を目指して～コミュニティービジネスを企画しよう Part3 ブラッシュアップ～			
指導観		超高齢社会を生きる生徒は、高齢になっても誰もが安心して自立的な生活を送ることができる持続可能な共生社会を築いていくうえでこれから重要な役割を担う存在である。しかし、生徒にとって高齢期は遙か先のことであり、本単元の学習内容に対する生徒の興味・関心も低く、自分の事として捉えられない生徒が多い。そこで、単元を貫く学習題材としてチームで高齢者に生活課題を解決するための「コミュニティービジネス」を企画提案させることとし、地域社会の一員として、何ができるかを考え、解決に向けて他者と協働して試行錯誤する過程を体験させることを通じて、本単元で身に付けさせたい能力に加え、探究する力を育ませたい。			
本時の目標		高齢になっても誰もが安心して自立的な生活を送ることができる持続可能な共生社会を築くために地域社会の一員として私たちにできることを地域の高齢者と共に考えることで、異世代と協働する力や課題解決に向かう力を身に付ける。			
過程	指導内容	生徒の学習活動	評価規準と評価方法	指導上の留意点	
導入 10分	本時の目標を確認	単元を貫く学習課題の進行状況と、本時の学習課題を確認し、学習の見通しを持つ。	【単元を貫く学習課題】 超高齢社会の課題、高齢者の生活課題を考察し、課題解決に向けて、 地域の助け合いによる持続可能な共生社会の創造 を目指して、 コミュニティービジネスを企画しよう！		
展開 80分	高齢者との関わり方	高齢者を迎えるにあたり高齢者を支援する際の心構えを学習 ▶ボディメカニクスの原則と心身の状態に応じた介助方法 ▶コミュニケーションの取り方や配慮の必要性 ▶山県市が取り組んでいる「介護防事業」について 社協「まめかなクラブ」の概要等	評価規準 【知識・技能】 記録 高齢者の尊厳と自立生活の支援の在り方について理解し、介助や支援に関する基礎的な知識・技能を身に付け、実践できている。 〈評価方法〉 行動観察・定期考査	〈Bを実現させるための方法〉 ・実際に高齢者を招き、交流させることで学んだ技術を実践する場面を設定。 ・地域の介護予防事業の様子を振り返る	
	高齢者との交流学習	高齢者とコミュニケーション 自己紹介等			
コミュニティービジネスを企画しよう!～Part3ブラッシュアップ～					
		▶立案中のコミュニティービジネス企画をチームで協力して地域の高齢者に説明する。 ▶意見やアドバイスを受け改善案を一緒に考え、企画を練り直す。 ▶参考になった高齢者からの意見やアドバイスの一部を全体で共有する。	【主体的態度】 高齢者からの意見やアドバイスを受け、企画のブラッシュアップに向けてチームメンバーと改善案を一緒に考え、提案しようとしている。 〈評価方法〉 行動観察 ワークシート 〈Aの例〉	〈Bを実現させるための方法〉 高齢者から聞き取ったアンケート結果や地域が取り組んでいる「介護予防事業」の目的や実態を参考にし、立案中の企画をさらに具体化させるよう促す。 ※持続可能であることを意識しているか確認す	

			高齢者に立案中の企画説明し、高齢者からの意見やアドバイスを取り入れ、企画のブラッシュアップに向けてメンバーの意見も調整しながら、改善案を提案している。	る。 〈Cの手立て〉 グループ単位での企画立案や交流をさせることで生徒同士が学びあう場面を設定。
まとめ 10分	・本時のまとめ ・見送り	・本日の交流学习を振り返る。 ・高齢者の見送り		・異世代の意見や考え方も取り入れることが地域課題解決のためには必要不可欠であることに気づかせる。

5 成果と課題

【評価】

	学習活動における具体的評価規準 (B)	「十分満足できる」と判断される状況 (A)	「努力を要する」と判断される状況 (C)
評価	高齢者からの意見やアドバイスを受け、企画のブラッシュアップに向けてチームメンバーと改善案を一緒に考え、提案しようとしている。	高齢者に立案中の企画説明し、高齢者からの意見やアドバイスを取り入れ、企画のブラッシュアップに向けてメンバーの意見も調整しながら、改善案を提案している。	・高齢者からの意見やアドバイスを聞くことはできるが、企画に対する意見や提案が出せない。 ・チームでの議論に参加できない。
状況	60%	35%	5%
行動	・高齢者の意見やアドバイスを聞き入れ、企画内容と関連させた質問ができる。 ・企画の改善に向けて自分の意見を述べるができる。 ・資料を探したり、企画書の入力をしたりするなど企画立案に向けて貢献できる。	・相手の状況に合わせて、画面調整したり、資料を見せたりしながら立案中の企画を説明している。 ・高齢者のアドバイスや意見を聞き入れる姿勢で聞き、企画に関連させた相談をしている。 ・高齢者も生徒も巻き込んで議論しやすいように誘導できている。	・グループワーク時は授業に欠席する。 ・否定的な意見のみを主張 ・反論されると不貞腐れる
実施後の振り返り かえり記述例	・高齢者の方のお話を聞いて、自分たちでは気付かなかった不便なことや課題などが知れた。 ・意見をまとめたり、自分の意見を改善したりできた。 ・実際に高齢者の方の話を聞いていろんな改善点があったしいところもありました。 ・今日話を聞いたおかげで高齢者の方々の話が聞けて良かったです。 ・高齢者の方の気持ちになって考えることができた。	・今回の議論では、他人の意見を尊重することの重要性を理解しました。自分は話のつなげ方がぎこちないと思ったのでそこは課題点です。ただ聞き入れるだけではなく、「でも」や「やっぱり」など、疑問だと思ったことは聞き返すことも大切だとも学びました。 ・自分たちが思いつかなかったことが沢山出てきて、より深いものに仕上がったし、高齢者の方と沢山交流することが出来たのですごく楽しかったし勉強になった。	・移動するのにも不便だとわかった。 ・今のままだと何が不便なのかは分かった。

【成果と課題】

- ・地域の異世代の方との交流・対話により、生活課題の実感、新たな気づきなど、生徒だけの協働では、**得られない効果**があった。
- ・地域の人々と共に学ぶ場面が設定できた。高齢者を招き、単なる交流の場とせず、共に一つの目標（ゴール）に向かって議論する仲間として授業に参加していただいたことで、**生活課題解決の価値を自覚し、能動的に学ぶ姿勢**が見られた。
- ・普段の高校生活では**コミュニケーションに躓きを抱えている生徒でも、対話せざる負えない状況**がつけられ、**短時間で異世代を理解したり受容したりする力を向上**させることができた。
- ・企業の会議室のような環境設定やチームを一会社に見立てるなどの状況設定の工夫により生徒の学習への**モチベーションアップ**につなげることができた。
- ・評価基準は「企画のブラッシュアップに向けて仲間と考え、提案しようとする」主体的に学習に取り組む態度を設定、行動観察と実施後の Forms による振り返り記述を組み合わせで評価。
行動や記述内容から、**ABC 評価だけでなく下図のような資質や能力の向上**が見られた。

2 研究実践（４）授業実践		評価	異世代との交流・協働 ブラッシュアップ
研究授業	における具体的評価規 準(B)	「十分満足できる」 と判断される状況（A）	「努力を要する」 と判断される状況（C）
評価	高齢者からの意見やアドバイスを 受け、企画のブラッシュアップ に向けてチームメンバーと改善案を 一緒に考え、提案している。 主体的態度	高齢者に立案中の企画説明し、高 齢者からの意見やアドバイスを取り 入れ、企画のブラッシュアップに 向けメンバーの意見も調整しながら、 改善案を提案している	・高齢者からの意見やアドバイ スを聞くことはできるが、企画 に対する意見や提案が出せない。 ・チームでの議論に参加できな い。
状況	思考力 対応力 60%	表現力 35%	5%
行動	・高齢者の意見やアドバイスを 聞き入れ、企画内容と関連させ た質問をしている。 ・企画の改善に向けて自分の意 見を述べることができた。 ・資料を探したり、企画書の入 力をしたりするなど企画立案に 向けて貢献していた。	・相手の状況に合わせて、画面調整 したり、資料を見せたりしながら立 案中の企画を説明している。 ・高齢者のアドバイスや意見を聞き 入れる姿勢で聞き、企画に関連させ た相談をしている。 ・高齢者も生徒も巻き込んで議論し やすいように誘導できている。	・グループワーク時は授業に欠 席する。 ・否定的な意見のみを主張。 ・反論されると不貞腐れる。 発達特性による 答えのない問いに向かう ことへの不安
情報収集整理		リーダー性	論理的思考力
※詳細は資料参照		人生100年時代に生きる私たちの未来を拓く	

2 研究実践（４）授業実践		評価	異世代との交流・協働 ブラッシュアップ
研究授業	における具体的評価規 準(B)	「十分満足できる」 と判断される状況（A）	「努力を要する」 と判断される状況（C）
評価	高齢者からの意見やアドバイスを 受け、企画のブラッシュアップ に向けてチームメンバーと改善案を 一緒に考え、提案しようとしてい る。 主体的態度	高齢者に立案中の企画説明し、高 齢者からの意見やアドバイスを取り 入れ、企画のブラッシュアップに 向けメンバーの意見も調整しながら、 改善案を提案している	・高齢者からの意見やアドバイ スを聞くことはできるが、企画 に対する意見や提案が出せない。 ・チームでの議論に参加できな い。
状況	60%	35%	5%
実施後の 振り返り 記述例	・高齢者の方のお話を聞いて、 自分たちでは気付かなかった不 便なことや課題などが知れた。 ・意見をまとめたり、自分の意 見を改善したりできた。 ・実際に高齢者の方の話を聞いて いるような改善点があった。	・今回の議論では、他人の意見を尊 重することの重要性を理解しました。 自分らは話のつなげ方がきこえないと 思ったのでそこは課題点です。ただ 聞き入れるだけではなく、「でも」 や「やっぱり」など、疑問だと思っ たことは聞き返すことも大切だとも 思いました。 自分たちが思いつかなかったこと が沢山出てきて、より深いものに仕 上がったし、高齢者の方と沢山交流 することが出来たのですごく楽し かったし勉強になった。	・移動するのに不便だとわ かった。 ・今のままだと何が不便なのか は分かった。 思考段階 に入れない 客観視 他者意見の尊重→深化 価値の自覚
傾聴力・受容力・想像力		※詳細は資料参照	

しかし、生徒の様子をタイムリーに見落とすことなく観察することは難しいため、今回の生徒の成長記録をもとに、**生徒目線と教師目線で実態に合ったルーブリック**を作成し、プロジェクト全体の評価は、**ポートフォリオにより評価**できるようにしたい。そのためには、**生徒自身も客観的に評価できる力を身に付ける必要があるため、このような学習形態の積み重ねが必要**である。

・1つのプロジェクトを進める形の協働的な学びの場面では、生徒の特性に合わせた役割が必然的に割り振られ、個々が自分の課題に気づき、互いの理解や受容につながった。

・一定数の発達に特性のある生徒は、プロジェクトで「正解のない問い」に向かうこと自体に苛立ちや不安を抱える傾向があり、チームで議論する協働の場面で輪を乱すような言動をとり、チーム全体の意欲を低下させてしまうことが最大の課題である。インクルーシブの難題ではあるが、そういった生徒には適切な個別支援のもと、生徒同士互いの特性を理解したうえで協働的な学びが進められる環境をつくる必要がある。

【振り返りシートの一例】・・・単元の最後に、一連の過程を振り返りながら記述させたもの

2 コミュニティビジネス企画発表～実践の成果と課題～

【単元を貫く学習課題】
超高齢社会の課題、高齢者の生活課題を考察し、課題解決に向けて、地域の助け合いによる持続可能な共生社会の創造を目指して、コミュニティビジネスを企画しよう！

① 超高齢社会の課題解決のために地域の一員として助け合う（共助）ことのできる

段階的な振り返り 俯瞰する力

まず高齢者の方々が何に困っているのかをアンケートで確認しました。そこで多かったのは交通手段が少なく、移動しにくいということでした。
そこで私たちは交通について良い案がないかと考えました。安いタクシーのサービスを立ち上げたり、バスの無料券などの案を考えました。
そして高齢者の方と実際に近い距離で話し合い、私たちの案が良いか、他にどのようなことがあればさらに良くなるのかなどを話しました。やっぱり実際に困っている方の話だと自分たちが気づかないことが沢山出てきて、より良い案になったと思います。例えば、病院に行くことが多いからこの区間だけでもバスを通して欲しいなどの声があり、確かに高齢者からしたら近くに病院がないと不便だなと感じました。
最終的にチームでまとめることができ、もし本当にこのサービスが出来たらいいなと思いました。

課題解決の
価値を自覚

この授業を受ける前は、この地域の高齢者の方々の悩みなどあまり気にしてこなかったけど、この授業を通して色々なことに不便を感じているお年寄りが沢山いることに気が付きました。例えば自分たちが考えた交通の便に関しては、私たちでも不便に感じる部分が多くあり、ここの地域よりもっと山奥にお住まいの高齢者の方々はもっと不便だろうなと感じました。このような悩みを直接聞いて、より良い解決策を考えることが出来たので、バスの無料券だったり安いタクシーなどが本当に実現できると高齢者の方々の病院だったり買い物だったりを補助できるかなと思いました。

2 コミュニティビジネス企画発表～実践の成果と課題～

【単元を貫く学習課題】
超高齢社会の課題、高齢者の生活課題を考察し、課題解決に向けて、地域の助け合いによる持続可能な共生社会の創造を目指して、コミュニティビジネスを企画しよう！

① 超高齢社会の課題解決のために地域の一員として助け合う（共助）ことのできる

会話のコツ接し方を習得

おばあちゃん達と話さずには丁寧な言葉遣いをして相手の趣味や楽しみの話をすれば楽しんでもらえることを知った
四谷なのに移動手段がなくて困っていることやお金や運動不足などが課題となっていてそれを改善する場所「まめかなクラブ」などがあることを知りめっちゃ良いな〜と感じた
おばあちゃんたちは自分の知っていることを話すのが好きだった
自分たちのプランは農業で少しでもみんなに動いてもらおうという企画でそのための野菜、移動手段など考えるべき課題の本質にそって考えられてよかった
野菜は旬に沿ったものがない「今ならエンドウなど」などおばあちゃん達の意見も参考にきた
他にも休憩のスペースを作りみんなでほっこりしたいや、異世代の人とも関わりたいなど見えてもらった
社会福祉協議会のうさみさんの話を聞き年を重ねると身体機能、認知機能が衰えやがて介がある状況になってしまうがそれを予防する介護予防がとても大切なことを知った「運動」「社会参加」など、
介護予防とは介護が必要になる前に予防することで重要なことは運動、栄養、心の健康、社会参加

具体的な生活課題を理解

目上の人とのかわり方を習得

介護予防の必要性和介護予防事業を理解

自分の成長を実感

他者の意見を取り入れ課題の本質に沿った議論現実と対峙する力

価値の自覚
意志ある学びに変化

自分自身の成長を実感

他者の役に立ちたい
自己有用感の高まり

自発的な探究心
経費や賃金の計算論
理的思考の第一歩

記述する場所が違っていても必死に計算を始める生徒

② 考察・感想…実施前と実施後のあなたの変化、身に付いた能力、今後の期待、今後の課題、感想などを具体的に述べてください。

実際にこの事業をやろうと思ったら地域団体からお金を少し貰うだけでは無理だと思って最近ガソリンなどが値上がっている中で少してはこの事業を回していけないと思ったから地域団体からお金を月40万くらい貰わないと労働資金などにも回せないと思った

22. 4 × 2 = 50キロ		労働資金、バス10人、タクシー10人
52 × 170 = 8840	170 × 150 = 25500	20人 × 時給1300 × 12時間
	8840 × 10	= 312000
1キロ = 500	= 88400 × 30	
	25500 × 30 = 765000	
52リットル	500 × 52 = 26000	8840 × 30 = 2652000
利益 × 10 = 260000 × 30		
= 7800000 + 30000		
	810000	1302000
		赤字49200
		361200

記述内容は稚拙な表現ではあるが、この単元で押さえたい知識や考え方を習得し、生徒個々の思考レベルに応じた成長が確認できた。